

[様式1]

令和2年度南予地方局予算の実施状況 (R3.3.31 現在)

- 1 予算事項名 宇和島圏域水田利用さといも生産振興事業費
- 2 事業期間 平成30年度～令和2年度
- 3 所 管 南予地方局産業経済部産業振興課地域農業育成室
- 4 事業概要

宇和島圏域の中山間地域の水田は、冬季の積雪の影響等のため生産作物が限定され、年間の利用期間も短い。また、国のコメ政策転換により、水田有効利用が求められているなか、「さといも」は有望であるが、管内では栽培が少なく、技術の蓄積や優良種芋が不足し、省力技術体系も未確立である。

そこで、栽培技術の向上、優良種芋生産や省力生産体系の確立を図り、産地化と水田の有効利用を図る。

	令和2年度
予算額	526千円

5 事業内容

(1) 宇和島圏域水田さといも生産振興協議会の開催 (予算額 115千円)

地域の水田利用状況と振興方策、関連事業の取り組み等について検討会を開催した。構成メンバーは、JAえひめ南、宇和島市、鬼北町、松野町（農業担当課及び農業再生協議会）、県（農林水産研究所、南予地方局産業振興課地域農業育成室）。

○第1回 6月17日（水）南予地方局7階会議室

- ・関係機関と情報共有
- ・令和2年度の活動計画を検討
- ・基本的な技術の定着と機械化の推進による規模拡大、県下種芋の安定生産を目指す。

○第2回 1月7日（木）南予地方局6階営農相談室（担当者会）

- ・令和2年度産の種芋や原種の生産状況について確認
- ・次年度の種芋の生産振興について協議。生産者を増やすよう活動する。
- ・令和3年度以降はセル苗による原種増殖を試作し検討していく。

(2) さといも生産技術の向上 (予算額 60千円)

① さといも栽培技術講習会の開催

既存生産者に対し栽培管理講習会を開催することで、生産技術の向上を図った。

実施日、場所	内容
5月 書類送付	生育初期の栽培管理について ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催
7月14日（火） 7月15日（水） 現地ほ場	ほ場互評会を実施。 各自の管理の様子や今後の管理 （灌水・防除等）について 現地講習を実施。
9月8日（火） 9月9日（水） 各地区支所	出荷打ち合わせ会を開催。 試し掘りした株をもとに、出荷規格の確認を実施。



10月29日(木) 現地ほ場	粗分離機実演会を開催し、機械化による作業労力の削減効果を実感してもらうことで、導入意欲の向上を図った。また、来年度の種芋確保のため、越冬対策の徹底を呼びかけた。
2月16日(火) 2月19日(金) 各地区支所	次年度の作付に向けた栽培講習会を開催。令和2年度の生育調査の結果等を紹介の上、栽培のポイントを説明した。

②栽培啓発セミナー

9月25日(金)に開催された農業委員会との意見交換会や2月3日(水)に開催された宇和島市集落営農組織等連絡協議会においてさといもの作業概要や経営指標等を説明し、増反や新規の作付を呼びかけた。

(3) 省力生産体制の整備(予算額174千円)

①作業受託組織の選抜・育成検討会の開催

作業受託組織や共同利用機械の要望について、生産者へアンケートを実施。作業受託組織の育成ではなくリース機械の充実を求める声が多数となり、特に掘り取り・分離の作業への支援要望が多くなった。

②機械化体系の実証

10月29日(木)に、掘取機、粗分離機等の実演会を実施。



(4) 優良種芋生産技術の実証と普及(予算額177千円)

①原種・種芋生産技術の実証

○種芋生産技術講習会の開催

実施日、場所	内容
7月14日(火) 7月15日(水) 各地区支所及び現地ほ場	生産者を交えたほ場互評会を実施。各自の管理の様子や今後の管理(灌水・防除等)について現地講習を実施。
2月14日(日) 2月18日(木) 各地区支所	出荷・調整方法について講習会を実施。出荷規格に基づく選別の徹底と出荷調整作業中の皮の過乾燥・低温障害への注意を指導。

講習会の他にも、愛媛県農林水産研究所と連携しながら、生育期間中のほ場巡回指導を実施した。

○種芋生産技術実証ほの設置

昨年度に引き続き、ビニールハウスを用いた冬期の種芋保管技術の検討を行った。また、株間を慣行より狭めることで、10aあたりの種芋の収量増加程度を検討した。

②種芋の生産ガイドラインの作成

実施日、場所	内容
1月7日(木) 南予地方局 2月2日(火) JA西条	昨年作成した生産者の選定条件や栽培指針等の内容を見直しするとともに、種芋の出荷基準について検討した。